NCU
グレイド
スキップ
チャレンジ
２０２３

名古屋市市政資料館（佐藤美弥撮影）

アーカイブズで平和を学ぶ
――公文書を調査し、地域の戦争を知ろう

はじめに

NCU グレイド・スキップ・チャレンジは、名古屋市教育委員会と名古屋市立大学が、高校生に大学での学びを体験してもらう高大連携事業として開講しているものです。

SDGs のひとつに「平和と公正をすべての人に」という項目があります。本講座「アーカイブズで平和を学ぶ――公文書を調査し、地域の戦争を知ろう」では、私たちの住む地域でかつてどのような戦争があったのか、資料館の展示見学や公文書として残された記録の調査を通して学びました。

第 1 日（8 月 23 日）には、愛知県と名古屋市が共同で設置した委員会が運営する資料館である愛知・名古屋戦争に関する資料館を見学しました。展示解説を聞き、モノ資料や映像の展示を通して、名古屋の戦災とくに空襲被害の全体像を学びました。つぎに名古屋市が作成した公文書等の記録を保存・活用するアーカイブズである名古屋市市政資料館で、戦災に関する公文書を調査しました。ここでは戦時中や戦後に名古屋市や周辺町村で作成された公文書の原本を閲覧、撮影しました。第 2 日（8 月 24 日）には、第 1 日で学び、調査した成果をふりかえり、ディスカッションをとおしてまとめました。

このリーフレットは本講座の 2 日間の学習の成果を、参加した生徒自身が執筆したレポートでまとめたものです。大学での学習には教科書や決まった答えのないものもあります。本講座が、過去のできごとを明らかにする際に、誰かがまとめた書物によるだけではなく、モノ資料や、できごとを直接経験した人物や組織が作成した記録の分析によってもそれが可能であること、そして大学の学びでは知識を吸収するだけでなく、自ら知識を発信することもできることを理解する機会となったのであれば幸いです。

最後になりましたが、本講座の開催に大きなご協力を賜りました愛知・名古屋戦争に関する資料館、名古屋市市政資料館のみなさまに心から感謝申し上げます。

2023 年 9 月 23 日

名古屋市立大学大学院人間文化研究科　佐藤美弥

1 名古屋の空襲の全体像

空襲はなぜ行われたか

空襲の目的は、軍需工場を焼き、住民を殺戮することにより戦争継続の意思をそぐことであった。名古屋は旧日本陸軍の第三師団(※)が設置されるなど軍事拠点としての性格を有していた。そのため、軍需生産や航空機関連の工場が多かった。また人口が多い大都市であったことなどが、名古屋が空襲を受けた理由であると考えられる。

※旧陸軍の部隊のひとつ。尾張地域出身者などからなる歩兵第六連隊などで構成されていた。

空襲はいつ行われたか

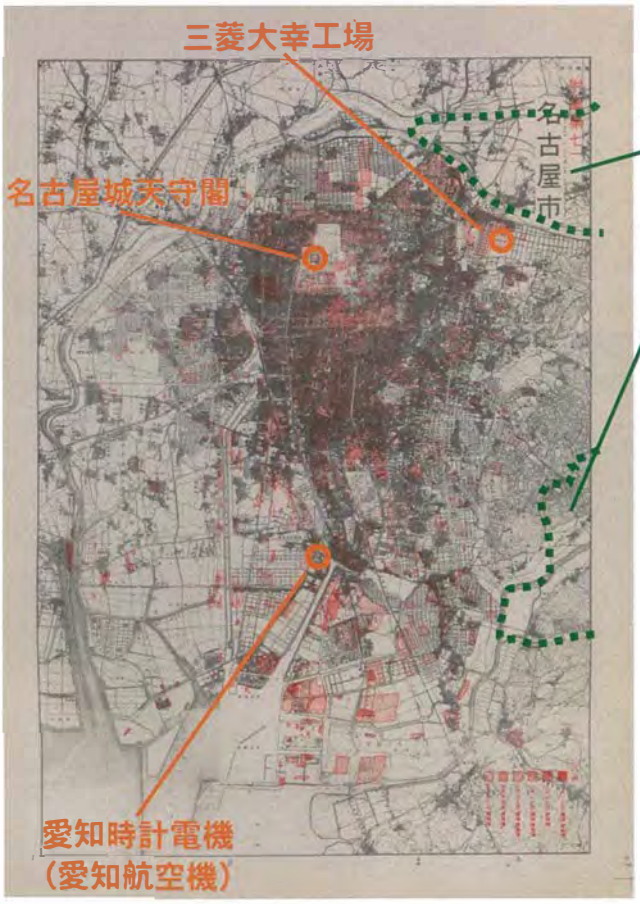
日本本土に対する初めての空襲は 1942（昭和 17）年 4 月 18 日のドウリットル空襲だった。このとき名古屋も攻撃対象となった。

名古屋への本格的な空襲は 1944（昭和 19）年 12 月 13 日の三菱重工業名古屋発動機製作所（三菱大幸工場、現在のナゴヤドーム周辺）への集中爆撃で始まった。

1945（昭和 20）年 3 月 12 日以降に名古屋市中心市街地に対する焼夷弾による大規模無差別爆撃が行われた（名古屋大空襲）。同年 5 月には、14 日、17 日に木造住宅の密集地を対象とした空襲が行われた。とくに 14 日の空襲では北部市街地が標的となり、名古屋城の天守閣が焼け落ちた。これら空襲で名古屋は他のどの都市よりも早く焼け野原となった。

そして 6 月 9 日には航空機を製造していた熱田区の愛知時計電機（愛知航空機）の工場が爆撃され、多くの徴用工や動員学生を含む 2000 名以上が亡くなった。

空襲の攻撃対象は、工場から住宅地へと移行し、終戦間近には中小都市さえも空襲の標的となった。



全国主要都市戦災概況図　名古屋（一九四五年一二月）
国立公文書館所蔵
※当時の天白村、守山町の図中でのおおよその範囲を示した。
※本リーフレットに記述した主な工場・名古屋城の位置を示した。

空襲の規模や被害

名古屋への空襲は確認できるものだけで、小規模なものも含めて 65 回。およそ 1 万 4500 トンの爆弾が投下された。これは広島と長崎を除き、東京、大阪に次ぐ規模であった。

名古屋の空襲での死者は 7800 人以上とされ、負傷者は 1 万 300 人以上を数えた。

名古屋市全体（当時）の 24%の面積が焼け野原となり、当時の名古屋の中心部であった東区、中区、熱田区でみると 50%以上が焼失した。

二の丸交差点付近に残るレンガ塀
（佐藤美弥撮影）

今も残る戦争被害の痕跡

名古屋城周辺……天守閣の石垣、第三師団の施設を囲っていたレンガ塀の一部などに空襲の跡が残る

熱田神宮周辺……爆弾の破片の残る堤防が一部保存されている。神社の鳥居の中には空襲時の爆弾の破片がつきささったものが残る。

講座のひとコマ

↑資料館に展示されている、空襲で投下された、250 キロ爆弾（愛知・名古屋戦争に関する資料館所蔵）

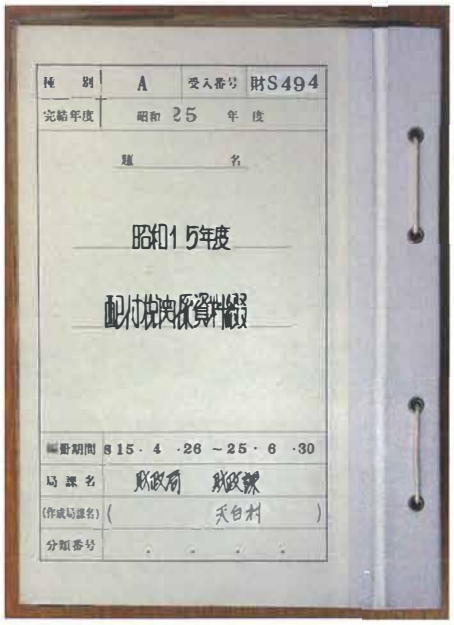
←愛知・名古屋戦争に関する資料館での展示見学

↓愛知・名古屋戦争に関する資料館の前で

2 名古屋市周辺の空襲被害——天白村

当時の天白村と調査した文書について

当時の天白村（現天白区）は、平地と丘陵地からなる農村で、まだ名古屋市には含まれていなかった。天白村の戦災について、1940（昭和 15）年から戦後にかけて作成された「配付税関係資料綴」（名古屋市市政資料館蔵）のなかの「戦災概況書」という文書を調べた。これは 1944（昭和 19）年 12 月から 1945（昭和 20）年 5 月までの期間の戦争による被害を、天白村から県に伝えるための文書であった。内容は戦災年月日、戦災前後の戸数、人口、被害状況、戦災復興の状況の 5 つに分けられている。戸数は戦災前 1398 戸、戦災後 2403 戸、人口は戦災前 7 万 2199 人、戦災後 1 万 2115 人と書かれている。被害状況について、死者 7 人、怪我をした人 25 人、家屋全焼 55 戸、家屋爆砕（全壊）8 戸、半壊その他 58 戸、田畑や堤防の破壊数十箇所、ガラスの破損無数と書かれている。戦災復興の状況について、増産のため田畑や堤防の修復をし、住宅も整備していると記述されている。



昭和 15 年度
配付税関係資料綴
（1940 年 4 月～1950 年 6 月）

名古屋市市政資料館所蔵

戦災概況書（「昭和 15 年度　配付税関係資料綴」のうち）（1946 年 7 月）

名古屋市市政資料館所蔵

文書からなにがわかるか

文書に戦災年月日として記録されている 1944（昭和 19）年 12 月 18 日から 1945（昭和 20）年 5 月 17 日は標的が工場から市街地に変わり名古屋中心市街地が空襲された時期と重なる。ここから大都市の空襲に伴って周辺地域にも被害が出ていることが分かる。

戦災前の戸数は 1398 戸・人口は 7 万 2199 人、戦災後の戸数は 2403 戸・人口は 1 万 2115 人と読み取れる。しかし、被害状況をふまえればあまりにも人口が減少しているので、名古屋市天白区のウェブサイト（「天白区の人口の移りかわり（天白区）」）を調べたところ 1940（昭和 15）年には 8097 人にであった人口が、1947（昭和 22）年には 1 万 2103 人となっていることがわかった。このデータから、戦災前の人口 7 万 2199 人の数字は誤って一桁多く書かれたものと推測される（実際は 7219 人か）。つまり、天白区は戦災前から戦災後にかけて人口・戸数が増加していたことがわかる。

人口が増加した理由として、空襲から逃げるため、名古屋市の人々が農村である天白村に移り住んだものと推測できる。天白村の人口の変化に対して、名古屋市の人口は 1944（昭和 19）年から 1945（昭和 20）年にかけて、20 万人ほど減少している（「名古屋市統計年鑑」名古屋市ウェブサイト）。しかし、出生数と死亡数にはあまり差がなかった。ここからも人々が大都市から農村に転出したという推測がより説得力を増す。

戦災後の復興では、田畑の修理や住宅整備をしていることが分かる。その理由として、戦時期に働き手が戦争に行ってしまって農業が停滞していたこと、空襲から逃れた人や戦争から帰ってきた兵士たちによって人口が増え、食料や住宅が不足していたことが考えられる。

↑名古屋市市政資料館中央階段室で

↓名古屋市市政資料館閲覧室で公文書を調査

↑セミナー室で調査結果をまとめる

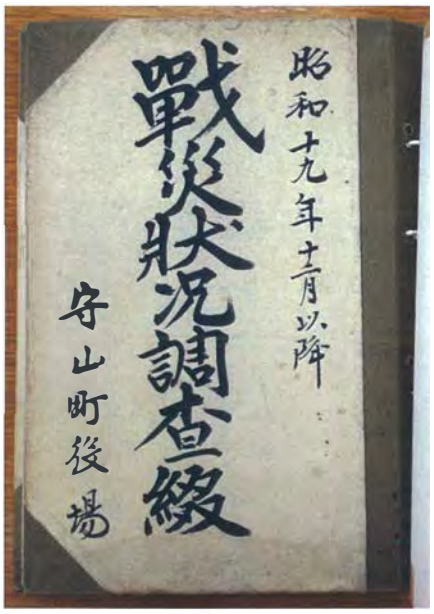
3 名古屋市周辺の空襲被害 ——守山町

当時の守山町と調査した文書について

当時の守山町（現守山区の一部）は田畑の多い農村だった。名古屋市ではなく独立した町であり、町制が施行され村から町となったのは 1906（明治 39)年のことであった。守山町には第三師団の一部の連隊が駐屯していた。

現在のナゴヤドーム周辺に所在した三菱重工業名古屋発動機製作所（三菱大幸工場）の近くに守山町の中心部があった。三菱大幸工場は当時、航空機エンジンの生産拠点で、日本における航空機生産の中心のひとつであった。そのため、米国陸軍航空軍の攻撃目標となり、従業員と動員学生らおよそ 500 名の死者が出た。このような被害があった工場の近くであったので、守山町も空襲の被害を受けることとなった。

「昭和 19 年 12 月起　戦災状況調査綴」は、昭和 19 年 12 月から守山町役場が作成した戦災の状況を調査した文書である。戦時中にリアルタイムで作成していた文書で、空襲による被害をまとめたものである。被害があるとその都度記録していた。人的被害、物的被害、其の他の被害、罹災者数に分けて記録していた。人的被害の欄は死亡、軽傷、重傷の 3 つ、物的被害は住居と住居以外の建物それぞれについて全壊、半壊など 5 つの項目に分けて、その数が書かれている。



戦災状況調査綴
昭和 19 年 12 月起　守山町
（1944 年 12 月～1945 年 5 月）

名古屋市市政資料館所蔵

文書からなにがわかるか

この「戦災状況調査綴」は三菱大幸工場が空襲を受けた時期に作成されたものである。名古屋への本格的な空襲の端緒である三菱大幸工場の集中爆撃が行われた 1944(昭和 19)年 12 月 13 日が最初の記録だ。1945（昭和 20)年 3 月 25 日にも同じく三菱大幸工場への空襲に伴う被害の記録が詳しく書かれている。12 月 13 日には 15 人、3 月 25 日には 136 人の死者が出ている。

この文書を見ると人的被害や住宅などの建物の被害以外にも田畑や農作物への被害があることを読み取ることができる。田畑や農作物への被害の記述があった理由は当時、食料が重要視されていたからだと考えられる。

守山町は三菱大幸工場の近くに位置していたため、名古屋市の中に含まれていなかったにもかかわらず、死者や重傷者などの人的被害や建物の全焼や全壊などの物的被害が大きかったことがわかる。

守山町戦災状況通計表
「戦災状況調査綴　昭和 19 年 12 月起　守山町」のうち

名古屋市市政資料館所蔵

主要参考文献

塩澤君夫・斎藤勇・近藤哲生
『愛知県の百年』山川出版社、1993 年
新修名古屋市史編集委員会編
『新修名古屋市史　第六巻』名古屋市、2000 年
新修名古屋市史編集委員会編
『新修名古屋市史　第七巻』名古屋市、1998 年
戦災復興誌編集委員会編
『戦災復興誌』名古屋市計画局、1984 年
戦争に関する資料館運営協議会編
『愛知・名古屋　私たちのまちにも戦争があった　～平和について考えよう～』戦争に関する資料館運営協議会、2020 年

編集・監修　佐藤美弥

執　筆
1　(名東 1 年)　(緑 1 年)
2　(桜台 2 年)　(桜台 3 年)
3　(名東 1 年)　(名東 1 年)

講座指導　佐藤美弥
アシスタント　(国際文化学科 3 年)
(国際文化学科 3 年)

発　行　名古屋市立大学佐藤美弥研究室
発行日　2023 年 9 月 23 日